

交通事業者に対するヒアリング調査の結果について

1 調査の概要

交通事業者の実情、課題、意向を把握するにあたり、路線バス及びタクシー事業者を対象としたヒアリング調査を実施しました。

(1) 調査対象および調査日

ア バス事業者

- ・江若交通株式会社：令和5年7月10日（月）
- ・近江鉄道株式会社：令和5年7月13日（木）

イ タクシー事業者

- ・守山タクシー株式会社：令和5年7月4日（火）
- ・近江タクシー株式会社：令和5年7月6日（木）

(2) 調査項目

- ・ここ数年の利用状況、利用の特徴や傾向
- ・事業者の抱える課題
- ・今後の事業の方向性
- ・守山市地域公共交通計画との連携

2 調査の結果

(1) ここ数年の利用状況、利用の特徴や傾向

- ・コロナ禍による外出控えにより利用者数は大きく減少。その後は回復傾向にあるものの、テレワークやweb会議の普及や定着により、通勤客等はコロナ以前の水準までは戻らないと見込まれる。
- ・路線バスの利用者数は、レインボーライン、市民ホール線は堅調であるが、それ以外の路線は低調である。
- ・タクシーの利用者数は、守山駅、主要病院関連が多い。免許返納者の利用も増えてきている。コロナ禍以降、夜間の利用については回復していない。
- ・もーりーカーについては、午前中に利用者が集中することが多い。

(2) 事業者の抱える課題

ア 乗務員不足・労働時間問題

- ・バス、タクシーともに乗務員不足が著しい。退職者数に対して、採用数が追いつかない。
- ・令和6年4月の改善基準告示見直しに伴う労働時間の規制により、乗務員の労働時間も減らす必要があり、既存のバス路線にも影響が出る。

- ・労働時間規制により労働環境が改善され、応募者数が増えるという。
- ・バスの乗務員について、高卒採用者は21歳まで大型2種免許が取得できないことや、他の乗務員とのジェネレーションギャップなどが課題となっている。

イ デジタル・ディバイド（利用者の情報格差）

- ・ＩＣカード、タクシーの予約アプリなどを導入して、効率化を図っていきたいが、利用者（特に高齢者）が使い方を習得することが難しい。
- ・もーりーカーの予約もシステム化したいが、電話対応でないと正しく予約ができないと思われる。通常のタクシーの受付と比較しても、利用者との電話でのやり取りにさらに時間を要しているのが現状である。

ウ その他

- ・守山駅西口ロータリーは雨天時の混雑が激しく、対策が必要と思われる。
- ・もーりーカーとタクシーとの区別が出来ておらず、制度をよく理解できていない利用者があるなど、トラブルが発生している。
- ・ＪＲの運転が見合わせとなるような災害時に、長距離対応をしたがために、市内のタクシー車両が不足する事態が発生した。

(3) 今後の事業の方向性、守山市地域公共交通計画との連携

- ・コロナの影響や乗務員不足など公共交通を取り巻く環境はネガティブな要素も多いが、前向きな取組みができればよい。
- ・これまでバスに乗ったことの無い人が、お試し利用をする機会があるとよい。
- ・デジタル化への対応は進めていくべきである。一方で地域の細かなニーズ等のアナログな対応も残すべき。
- ・もーりーカーの利用が増え続けると、将来的にタクシー車両が不足する可能性があるため、運行の効率化等により、持続可能な交通手段としていく必要がある。
- ・脱炭素、D Xといったこともキーワードになってくるのではないかと。

3 調査結果を踏まえたまとめ

コロナ禍による影響については一定落ち着いてきており、利用者数も回復傾向にあるが、コロナ禍以前の水準までは戻らないことが見込まれます。

また、乗務員不足が課題となる中、公共交通を維持していくためには、運行方法等の効率化や見直しが必要となりますが、ＩＣＴの活用等は利用者にとってわかりやすく使いやすいものとする必要があります。

様々な課題を抱えるなか、公共交通を取り巻く状況は厳しくなっていますが、前向きな取り組みを検討していくことが求められています。